

# 佐太講武貝塚の「ゴミ」から食生活を復元する

貝塚に捨てられた「ゴミ」は、当時の食生活を知るうえで大変貴重な資料です。持ち帰った土を細かく調べたところ、魚介類や木の葉、哺乳類の骨などが多く見つかり、五〇〇年前の縄文人の食卓が明らかになってきました。

ほとんどの食物を自然の恵みに頼る縄文

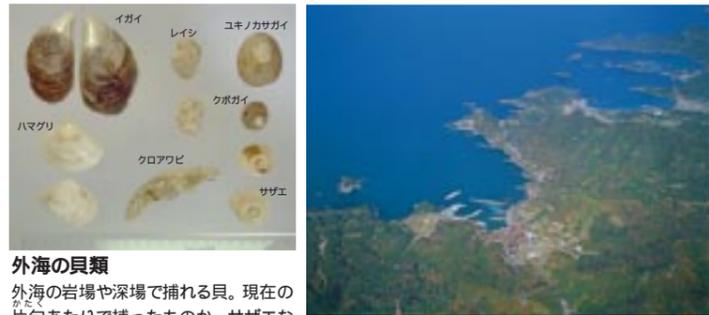
人は、つねに豊かな食卓が保証されていたわけではなく、ときには食料が乏しく、苦しい生活を余儀なくされたこともあったことでしょう。そうしたなかで、自然を敬い、また畏れつつ、肩を寄せあつてたくましく生きていた、佐太講武の縄文人の姿がしのばれます。

## 貝類

サザエ、アワビは海で捕れるものから汽水域（海水と淡水が混ざり合った場所）で捕れるヤマトシジミまでが見られ、広い採取活動がうかがえます。ヤマトシジミの



見つかった多量のヤマトシジミ（大きいものは3cm 近くある）



現在の倉内湾（鹿島町）周辺

## 外海の貝類

外海の岩場や深場で捕れる貝。現在の片貝あたりで捕ったものか。サザエなどは大型のものが多く、潜水して捕ったと考えられる。



ニホンジカシカの骨はやすや釣り針など、漁の道具を作る材料としても大切だった。

イノシシ冬を越すときのイノシシの肉は脂がのっておいしい。冬は狩猟には最適なシーズンだった。



写真提供 広島市安佐動物公園

ほ乳類  
イノシシが目立って多く、食用にされたものと思われま。ついでニホンジカが多く、サルやタヌキ、アナグマの骨も見つかりました。



イノシシの犬歯（左）と下顎骨（右）



下顎骨、角、すがい頭蓋



写真提供 大畑純二氏



アナグマの下顎骨、テンの下顎骨



ニホンザルの下顎骨

## 植物

フロレーションの結果、フユイチゴ、マタタビ、ニワトコなどを食べていたことがわかりました。アカメガシワの葉で食べ物を包んだり、盛ったりしたのでしょうか。



マタタビ

アカメガシワ

ニワトコの実

フユイチゴ

## 魚類

骨の分析の結果、淡水魚のコイ科を中心に、海水魚ではタイ類が多く捕られていたことがわかりました。



採取された魚類の骨の一部 10種類以上の魚の骨であることがわかった。

### 淡水に棲む魚



ハゼ

ナマズ

コイ

ウナギ

写真提供は佐藤仁志氏

### 海に棲む魚



マサバ



イシダイ



クロダイ



カワハギ

歯骨(45cm前後のクロダイのものと同定される)

## 広い活動範囲〜生活の舞台を探索〜

奈良時代に編纂された『出雲国風土記』によると、宍道湖の北方に「佐太水海」という湖が記されています。おそらく縄文時代にも、同様の沼があったと考えられます。北の日本海、南の宍道湖と水海の間に住んでいた佐太講武の縄文人は、両方を漁場として季節の漁を営んでいたことがうかが

## 整理の過程でヤマトシジミ

や淡水の魚の骨が多く見られることから、おもに南の宍道湖のほうへ目が向いていたのかもしれない。貝塚の調査は、こつとした縄文人の活動範囲についても、さまざまなお話を教えてくれました。



松江市西浜佐陀町の湖の内周辺（宍道湖上空から）中央の湖が「佐太水海」の名残り。右の川は左陀川。

## 貝塚アラカルト〜さまざまなお土産〜

「きれいな物で身を飾りたい」という願いは、いつの時代も同じようです。貝塚からは、さまざまなアクセサリーが見つかりました。

装飾品を身につけた縄文人(想像図)



貝で作った耳飾り(球状耳飾りの破片)

コブダイの歯で作った首飾り

二枚貝を加工して作った貝輪

## 赤ちゃんの骨！



新生児か胎児の大腿骨です。貝塚は単なるごみ捨て場ではなく、人を葬る「聖なる場」でもあったのです。

## 糞石

人や動物のウンチが化石のよつに固まったものを糞石といわれます。佐太講武では人のものと思われる糞石が見つかりました。糞石からは健康状態や食生活はもろろろ混じっている花粉からウンチをした季節までわかります。

